南伊豆町 ＆ 早稲田大学
地域連携ワークショップ 2022

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光・・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 「若者向けの PR 施策」という**大学生が自分事化しやすいテーマ**で、地域の課題や解決策を考えることができます！
- **町長や住民の方々に、直接お話をお伺いする**貴重な機会があります！
- 「みなみの桜となのはな祭り」への参加など、**現地でしか味わえない体験**ができます！

テーマ

若者の“旅したい”を引き出す PR 施策を提案せよ！

南伊豆町は伊豆半島の最南端の風光明媚な地域ですが、一方で半島の先端という地理的に不利な場所に位置しており、全国の過疎地域と同様に人口減少、少子高齢化が進み、現在の人口は約 7,800 人にまで減少しています。

今後も人口が減少していくと予想される中、本町では定住人口の維持を図りつつ、**本町と継続的・積極的に関わりを持つ人（関係人口）の創出**にも取り組んでいます。そのために**町の主要産業である観光を通して交流人口の拡大を図る**ことで多くの方に町を訪れ・知るきっかけをつくり、その後の関係人口や移住・定住にも結び付けていきたいと考えています。

今回のワークショップでは、若者が南伊豆町に「旅したい」、「訪れたい」と思う地域になるための魅力や課題を洗い出し、**①若者が南伊豆町を訪れたくなるような PR 施策**、**②若者の心をつかむキャッチフレーズ**の２つを提案していただきます。

現地調査が予定されている２月の南伊豆町は早咲きの河津桜が咲き誇る季節です。河津桜を眺め、温泉につかりながらこれからの観光業とそれを取り巻く環境について一緒に考えてみませんか。

南伊豆町の魅力

伊豆半島最南端に位置する南伊豆町は、太平洋を三方に望み、美しい山々を背にした風光明媚な景勝地です。日本の渚 100 選に選ばれている「弓ヶ浜」や、景勝地として有名な「石廊崎」、有数の湧出量を誇る「下賀茂温泉」、世界ジオパークに認定された多数のジオサイトなど魅力的な観光スポットのほか、県内有数の水揚げ高を誇る「伊勢えび」をはじめとした、海山の豊富な資源に恵まれています。

また、年間の平均気温は約 17 度と年間を通じて温暖な土地となっています。

募集概要

募集期間	2022 年 12 月 2 日（金）～12 月 18 日（日）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	**原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと**
募集人数	2 チーム（10 名程度）
応募方法	**事前説明会（オンライン）について【要申し込み】** 日程：12/6（火）、12/8（木）、12/9（金）、12/12（月）、12/14（水）、12/16（金） 時間：12:20～12:45（全日程共通） ※申し込み方法などの詳細は、Waseda メールもしくは Web ページ上でのご案内に記載しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 6 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 （説明会出席後）**以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から申請してください。** ① MyWASEDA の「お知らせ一覧」から「地域連携ワークショップ 2022 春編」を検索 ②「地域連携ワークショップ 2022 春編応募フォーム」から「申請」をクリック ③ 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請
選考方法	書類選考：結果通知は**2022年12月27日（火）までにWasedaメール**にて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、南伊豆町内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ 【重要】フィールドワークへの参加にあたっては出発前に PCR 検査等を受検し、結果を提出いただく必要があります。受検方法、スケジュール等は参加者にご案内します。 ⑤ **新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては対面でのイベント（オリエンテーションやフィールドワーク等）がオンラインでの実施に切り替わる可能性があります。**その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑥ 参加にかかる費用（フィールドワーク期間中の食費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など）は参加者による実費負担です。なお、**フィールドワークにかかる現地までの交通費については１往復あたり 8,000 円以内の補助**（JR 東京駅から伊豆急下田駅までの普通電車運賃相当）を南伊豆町から出していただけます。**宿泊は町が管理する体験住宅等の施設を利用**します（無料）。 また、WSC メンバーズ基金（WASEDA サポーターズ倶楽部）からの支援により、5,000 円～10,000 円が補助されます（金額はワークショップ開始時にご案内します）。 ⑦ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑧ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑨ 早稲田大学の学生補償制度に加入いただきますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。 ⑩ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、**公欠扱いとはなりません。** ⑪ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。
問合せ先	教務部教育連携課（rbso@list.waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2023 年 1 月 13 日（金） 16:30～19:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者からの説明 ・自治体の課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明 ※授業等により欠席／遅刻／早退となる場合は応募フォームにてその旨お知らせください。
②	交流会 @早稲田大学	2 月 8 日（水） 10:30～12:30	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認
③	事前調査期間	オリエンテーション ～2 月 12 日（日）	・各自で南伊豆町やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・ヒアリングに関する事項（ヒアリング希望先、質問内容など）をチームで検討し、2 月 6 日（月）までに自治体へ提出する ・授業や試験・レポート対応の合間で自主的にグループワークを実施し、議論を深める
④	オンラインヒアリング （@Zoom）	2 月 13 日（月） ～2 月 16 日（木）	・事前調査をふまえ、提案の検証に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
⑤	フィールドワーク @南伊豆町	2 月 17 日（金） ～2 月 20 日（月） 【3 泊 4 日】	・町内及び近隣市町村の施設などを訪問 ・町長をはじめ、町のキーマンの方々へのヒアリングを実施 ・「みなみの桜となのはな祭り」への参加
⑥	中間報告会 @早稲田大学	2 月 28 日（火） 13:30～15:30	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑦	プレ報告会 @早稲田大学	3 月 7 日（火） 13:30～15:30	・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 ※進捗状況によっては左記日程に追加で実施する場合があります。
⑧	最終報告会準備・ 追加調査期間	中間報告会 ～3 月 13 日（月）	・中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ ・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）
⑨	最終報告会 @早稲田大学	3 月 14 日（火） 15:00～17:00	・町長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 18:00 頃となります。

※上記以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
  ↓
- 事前調査：
  個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
  課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
  どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
  ↓
- 現地調査・ヒアリング：
  自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
  ↓
- 最終提案資料作成：
  現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
  ↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

●「学生だけじゃ何も変えられない」から**「学生だから変えられる」という経験**ができました。（社会科学部 1 年）

●**インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかる**ことがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）

●活動を進めていく中で**自分が得意としていることと苦手としていることもはっきりと判明**しました。1 ヶ月半課題と向き合うことで、今後自分を成長させるための手がかりを得ることができたと感じています。（人間科学部　2 年）

チームメンバーとの関わりを通して

●元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）**ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさ**を体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）

●意見を交わさなければ何も始まらないので否が応でも話さなければならない環境で、（中略）**それぞれ全く異なる視点から物事を分析している**ということがよくわかりました。（政治経済学部 2 年）

●あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して**相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さ**を学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

●自分が住む地域をよりよくするために、**行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的**でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）

●「地域振興」は地元の人が中心に行うものというイメージから、外部の人でもできる、**むしろ外部の人でなければできないこともある**というイメージに変わりました。（政治経済学部 2 年）